つくる

● 開館にあたって ●

現在の東京都中央区佃に位置した石川島の地は、日本における近代的造船業の発祥の地でもあります。1853（嘉永6）年、この地に水戸藩の徳川斉昭の手によって創設された石川島造船所は、現在のIHIの母胎となりました。以来、IHIは造船をはじめ様々な産業分野で、常に時代の先駆けとなる製品を生み、日本の歴史とともに歩んできましたが、工場は1979（昭和54）年その役割を終え、以降その地は東京都のウォーターフロント開発計画の先駆けとして、"リバーシティ21"と名付けられ、発展を続けています。

この度、IHI 創業の地である "リバーシティ 21" 内に開設した「石川島からIHIへ～石川島資料館～」は、造船所の創業から現在までと、それと深い関わりを持つ石川島・佃島の歴史や文化とともに、貴重な資料や当時を再現したジオラマ模型などで紹介し、歴史の中でIHIが果たしてきた役割を伝える個性溢れる資料館です。

私たちは、こうした史実を後世に伝えることで、社会のお役に立ってゆきたいと願っています。

交通のご案内

■地下鉄有楽町線、大江戸線「月島」駅下車。6番出口より徒歩約6分

■東京駅八重洲口より都営バス
（東京ビックサイト行き、または豊洲駅前行き）にて約16分
「リバーシティ21」下車。徒歩約2分
（ピアウエストスクエアに有料駐車場があります）

開館のご案内

開　館　日	毎週 水曜日・土曜日　入場無料
開 館 時 間	午前10:00～12:00 午後1:00～5:00（入館は午後4:30まで）
所　在　地	〒104-0051東京都中央区佃1-11-8ピアウエストスクエア1階 電話（03）5548-2571

石川島からIHIへ
石川島資料館

株式会社IHI　広報・IR室
〒135-8710 東京都江東区豊洲3-1-1 豊洲IHIビル　電話（03）6204-7031

ホームページアドレス　http://www.ihi.co.jp

●このパンフレットの記載内容は 2009 年 3 月現在のものです。

90400-119-22-1203-1000-FXSS(DM208)

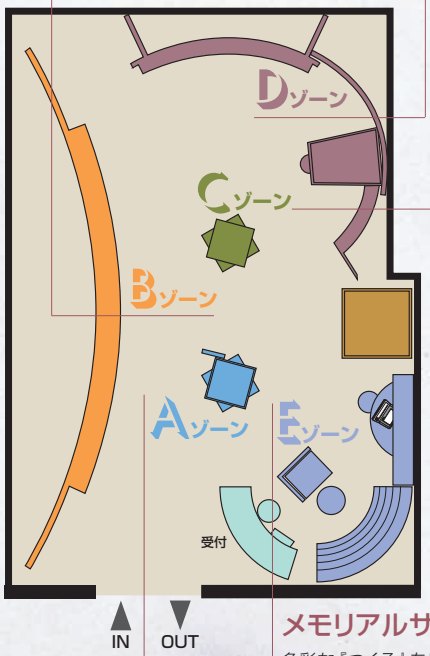
石川島からIHIへ
石川島資料館

時代をつくる 佃工場とIHIの歩み

石川島・佃島の誕生から石川島造船所創業、佃工場閉鎖を経て現在に至るまでをそれぞれの時代背景とともに紹介し、歴史の中でIHIが果たした役割を紹介します。また、日本の重工業界における"はじめて"の製品や技術も紹介します。

工場日記

佃工場に働いた人々の心に残るエピソードを題材に、工場勤務の一日のシーンをジオラマで再現しました。
高度成長期へ向かって日本全体が活気に満ちていた時代をとりあげ、佃島・月島の土地や人々との交流が、ほのぼのと見えてきます。



重工業はじめてものがたり

日本の近代産業の黎明期から現代まで、IHIの手になる日本初、世界初の製品や技術はたくさんあります。
日本の重工業史そのものでもあるIHIのものづくりの歩みを、貴重な製品写真の数々で紹介します。

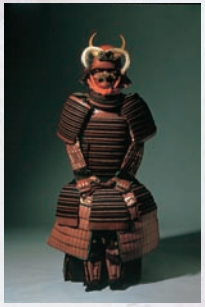
メモリアルサロン

多彩な『つくる』を見るライブラリーです。映像ギャラリーとライブラリーがあります。IHIが日本国内や世界各国でつくって名所となった建築や橋梁、石川島に関連する様々な人物、などが貴重な書籍・資料や映像でご覧になれます。IHIホームページへアクセスできる端末もご利用になれます。

船をつくる

民間初の蒸気船、石川島平野造船所1番船である「通運丸」。
その建造中のドックの情景を、働く職工さんたちとともに再現した模型が創業時の『つくる』現場の雰囲気を生き生きと伝えます。

「石川島」由来の鎧
現在、当社の社名として残っている「石川島」は、もともと隅田川河口にあった小島の名で、徳川幕府三代将軍家光（1604～1651年）の頃、旗本石川重次がこの島を屋敷地として拝領し、代々居住したことに由来する。石川重次は有名な宇都宮釣天井事件の伝説によると、将軍家光の駕籠を一人で担いでその危機を救った剛力無双の武士であったと伝えられている。この鎧は石川重次が着用したもので、石川氏の子孫から当社に寄贈されたもの。



Aゾーン 船をつくる

民間造船所初の蒸気船、石川島平野造船所1番船「通運丸」

Cゾーン 重工業はじめてものがたり

Dゾーン 工場日記

当時の佃島界隈の情景をミニジオラマで再現します。

当時の佃工場と佃島の地形模型

Bゾーン 時代をつくる 佃工場とIHIの歩み

全国産偵察機CM−1
陸軍の注文で日本人の手で設計、試作された最初の偵察機の一つ。当時月島にあった分工場で1927（昭和2）年に製作された。正式採用には至らなかったが、その技術は石川島飛行機製作所やその後身、立川飛行機へと受け継がれ"赤とんぼ"の愛称で親しまれた練習機のベストセラーとなった95式1型へと発展していった。

75トン　ハンマーヘッドクレーン
第一次世界大戦に出征した石川島の技術者が当時ドイツの租借地であった青島で、爆撃によって倒壊したハンマーヘッドクレーンを見て、その長所に着目。帰国後、図面1枚なしで青島での記憶を頼りに設計、製作した。
1916（大正5）年に工場の明石町側の岸壁に設置されて以来、50年以上にわたってクレーンや橋梁、鉄構物の組立、船積みなどに佃工場のシンボルとして活躍し続けた。

民間造船所で建造された最初の鉄骨・鉄皮軍艦「鳥海」

図面など関連資料が閲覧できる引き出しケース

「世相・風俗　東京・佃」などさまざまな資料を映像で紹介します。

1876（明治9）年
日本初の民間洋式造船所、石川島平野造船所を設立した平野富二

旭日丸

近江鉄道電気機関車

Eゾーン メモリアルサロン 映像ギャラリー ライブラリー

「石川島ーさまざまなつくり手たちー」（3分30秒）
様々な時代に石川島に関わった人々、"鬼平"こと長谷川平蔵、石川島平野造船所を起こした平野富二や渋沢栄一、IHIを世界の企業に押し上げた土光敏夫、などを映像にまとめています。

「世界の風景をつくる」（3分20秒）
石川島造船所の時代から現在のIHIに至るまで、日本・世界各地につくり出してきた人々の心に残る建築や橋梁などを映像にまとめています。